

## 第5学年 授業改善推進プラン

	児童の実態から見える 指導方法の課題(重点項目)	具体的な授業改善策	○成果と▲課題
国 語	<p>○物語文や説明的文章の要旨を捉えられるようにする。</p> <p>○漢字や言葉の特徴やきまりを正しく理解させる。</p> <p>○話す・聞くの指導を重視する。</p> <p>○丁寧な字を書くようにさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面や段落ごとに重要な語句に着目して読み、話の中心を捉えられるようにする。</li> <li>ノート指導の充実を図り、物語の登場人物の気持ちや、文章の要約を自分なりに表現させる。</li> <li>学習した言葉の特徴やきまりを授業の中で繰り返し振り返る。</li> <li>話の構成を考え、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。また、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。</li> <li>丁寧なノートの紹介をし、丁寧に書こうという意欲をもたせる。</li> </ul>	
社 会	<p>○適切な資料を集めたり、選んだり、そこから必要な情報を読み取ったりできるようにする。</p> <p>○見方・考え方を働かせながら、社会的事象について解決する力や、選択・判断する力を伸ばしていけるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな資料が必要かを児童に考えさせ、インターネットを使った資料集めを行うとともに、電子黒板を利用した効果的な資料提示を行う。また、その資料から特徴や考察をノートやワークシートに書く指導を繰り返し行う。</li> <li>課題について、見通しをもって追究させることで、児童が見方・考え方を働かせながら学習に取り組めるようにする。また、比較・分類など様々な追究の方法を示しながら、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えることができるようにする。</li> </ul>	
算 数	<p>○基礎基本となる学習理解の定着を図る。</p> <p>○課題に対する自分の考えをもたせる。</p> <p>○多様な考え方や表現の仕方や捉え方ができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別指導で児童の習熟に合った指導を展開する。</li> <li>習熟度を測るテストを定期的に行い、習熟の度合いを明確にする。</li> <li>課題把握、自力解決、練り上げ、まとめ、振り返りの指導の流れを一貫して行い、自分の考えをもたせる場面を作る。</li> <li>問題を解くことだけを目指すのではなく、いくつもの方法で問題を解いたり、様々な解き方を説明したりする授業を展開する。</li> </ul>	
理 科	<p>○問題解決学習のプロセスを定着させる。</p> <p>○実感を伴った学習活動を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題、方法、予想、実験(観察)結果、考察という問題解決の流れを明確にした授業を展開する。</li> <li>具体物を用いたり、実験を積極的に行ったりし、実感を伴った理解をさせるようにする。</li> </ul>	

<p>体 育</p>	<p>○自己の技能の高まりを実感させる。 ○友達と学び合う学習活動を取り入れる。  ○自己に応じた課題をもち、運動への意欲を高めるようにする。</p>	<p>・技能ポイントを明確にし、具体的な声掛けや、示範を取り入れる。 ・学習カードを活用し、見合い、教え合いの視点を明確にしながら、活動していく。 ・1時間ごとに自分のめあてを考えさせ、その時間での達成の度合いを振り返り、達成感を味わわせていく。</p>	
<p>総 合</p>	<p>○自ら調べ進めていこうとする態度を育成する。  ○他者と協働して調べたことを発表したり共有したりする活動を充実させる。</p>	<p>・児童や社会の実態を考慮し、児童の「調べたい」という意欲を高めることができるテーマを設定する。 ・パソコン、模造紙、劇など発表の仕方を多様化したり、調べたことを共有したりすることで、他者と協働しながら課題を解決しようとする学習活動を充実させる。</p>	
<p>道 徳</p>	<p>○価値に迫るために多様な指導法を工夫する。  ○他者の考えを受け止め、自分の考えを深められるようにする。</p>	<p>・児童が身近に感じることのできるような教材を提示、開発していく。 ・児童への「ゆさぶり」を積極的に取り入れ、自分事として話し合いが行われる授業展開にしていく。 ・(ペアやグループ、)クラス全体での意見の共有を行い、話し合う活動を充実させる。</p>	
<p>外 国 語</p>	<p>○外国語に興味、関心をもたせる。  ○積極的に他者とコミュニケーションをとれるようにする。  ○言語や文化について体験的に理解を深めるようにする。</p>	<p>・授業開始時に、warm up の時間を十分とり、歌やチャンツなどで、リズムに乗って楽しく始められるようにする。 ・ゲーム等を行い、ただ楽しむのではなく、言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な場面や課題を設定する。また、児童が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れていく。 ・外国語の音声やリズム、日本と外国との生活習慣や行事などの違いを知る機会を増やす。</p>	